

2024年6月9日午前10時30分
 聖霊降臨節第4主日 花の日子どもの日CS合同礼拝
 司会 廣瀬一寛
 奏楽 川名ひさ子

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のめき)
 前奏
 招きのことば ヨハネ福音書 4:23-23
 讚美歌 こども4「つくりぬしをさんびします」一同
 交読詩編 23 編(こども P.202)

祈り 司会者
 ≪関東教区お祈りカレンダー≫
 三条教会 見附教会 栃尾教会
 (主の祈り)

讚美歌 こども 115「この花のように」一同
 <こども祝福式>

聖書 新約 ヨハネ 12:24-45(P.192)
 メッセージ『太陽の弓矢』
 祈り 川上牧師

讚美歌 こども 56「むぎのたねまきます」一同
 <わかちあいのとき>

献金 一同
 (献金感謝の祈り)

信仰告白(こどもたちの信仰告白) 一同

頌栄 26「グローリア、グローリア、グローリア」
 派遣・祝祷 川上 盾 牧師
 後奏
 報告・紹介

<招きのことば> ヨハネ福音書 4:23-24
 まことの礼拝をする者たちが、霊と真理とをもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。

≪6月礼拝当番≫ 伊藤愛子 岡安茂能
 伊藤普史 井上ティナ
 渡辺雅之

≪今週の集会・行事≫
 ◎ 本日礼拝後 ミニ・バザー M's café
 ◎ 本日礼拝後 花の日訪問
 持ち寄られた花を花束にして届けましょう。
 ◎ 13日(木) 牧師、育心こども園
 ◎ 14日(金) 牧師、共愛学園理事會
 ◎ 15日(土)10:00 会堂清掃 D組

≪次週の主日≫
 ◎ 洗礼準備会 9:30
 ◎ 主日礼拝 10:30
 メッセージ『「聖なる場所」ではなくても』川上牧師
 聖書:旧約 ミカ 4:1-7(P.1452)
 新約 ヨハネ 4:21-24(P.169)

讚美歌 11(1-2), 344, 406, 11(3)
 交読詩編 84:1-13(P.97/93)
 司会:徳島恵子 奏楽:金井文子
 ◎ CSスタッフ会議 礼拝後
 ◎ 群馬地区壮年部 交流のつどい 15:00

≪予告≫
 ◎ 婦人会例会 20日(木)10:30
 ◎ さんびカフェ 25日(火)10:30 沼田宅
 ◎ フェロシップの会 30日(日)礼拝後
 お話:佐藤道子さん

≪報告≫
 ◎ 本日は花の日こども日・CS合同礼拝です
 礼拝の中で、こども祝福式、わかちあいのとき、二つの式を行ないます。こどもたちの成長を願い祝福を祈る教会となりますように。礼拝後はミニ・バザー & M's café です。お楽しみに。また持ち寄られた花は花束にしてお休みの方への訪問に用います。各自どうぞお届け下さい。

◎ 群馬地区壮年部 交流のつどい
 次週主日 15:00 から前橋教会を会場に行なわれます。地区壮年部の主催ですが、女性の参加も歓迎とのことです。地区諸教会の交流のためのプログラム。どうぞご参加下さい。

◎ 野外礼拝のごあんない
 7月28日(日)、赤城バイブルキャンプ(ABC)で行ないます。本日案内のお便りを配りました。準備の都合上、参加申し込み締め切りは6月末といたします。どうぞお申込み下さい。

◎ フェロシップの会、久々に開催します(6/30)
 ふだんなかなか話せない方のお話を聞き、信仰の交わり(フェロシップ)を深める時として行われていましたが、コロナ状況により中断していました。前回は2019年9月29日、鎌田正之さんのお話でした。今回は佐藤道子さんがお話をして下さいます。どうぞご予定下さい。

◎ 礼拝時の駐車場について
 早く帰りたい方が入口近くに駐車されることが時々見られます。気持ちは分かりますが、これをすると後から来る人が駐車しづらくなりますので、なるべく奥から詰めて駐車するようにして下さい。また、各車ダッシュボードに名札を置いて下さい。退出時に必要となるときがあります。

≪先週の集会≫

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	44	24	29,650
	昼()	夜()	計
聖研祈禱会	7	7	14

≪メッセージ≫『答えは風の中に』 川上牧師
 ヨハネ 3:1-15(6月2日)
 ▼先週、関東教区総会が行われ、参加してきた。いづゆる「ジャンジャン総会」、その意味で「無風の総会」であった。そんな中、議場に風が吹くのを感じた時間があった。「教区これから～財政と宣教の取り組み」というテーマで、協議会が行われた。高齢化が進み教会員が減少し、人もお金も目減りする現状でどのように歩んで行くか...普通なら沈みそうになる課題であったが、いくつも前向きな意見が語られた。▼複数の教会が協力して共に歩む共同牧会の話、若い人や傷ついた人の癒しの場としての教会の可能性、そんな発言が相次いだ時、風が吹くのを感じた。教会がじっと動かないでただ人が来るのを待つのではない、新たな人と出会うとして動くとする...そこに風が吹くのだと感じた。▼ペンテコステは風の起こした奇跡である。師であるイエスを天に送り、「師の不在」の状況で不安と心配の中にあつた弟子たちに、神さまの聖霊の導きが降り、教会の宣教が始められた日である。▼私はこれまで、師を失い、意気消沈していた弟子たちに聖霊が降った...そんな風にイメージしていた。しかし彼らはただじっとしていたのだろうか、そうではないのではない...教区総会の協議会の様子を見ながらそんなことを考えていた。▼弟子たちがユダヤ人の目を恐れて不安を感じていたのは事実であろう。しかし彼らはただ動かずにじっとしていたわけではなかった。彼らは時折集まっていたのだ。それは危険なことである。助かりたいけれど、個々バラバラに隠れているのが一番だ。しかし彼らは集まり、そして祈っていたのだ。▼彼らは動こうとしていたのではないだろうか。動き出してイエス・キリストのことを語り伝えたい...そんな思いを抱き危険を冒して集まっていたのではないだろうか。でも彼らの力だけではできなかった。恐れや不安を打ち破る最後のひと押し、不思議な風が与えてくれたのではない...▼今日の箇所はイエスとニコデモとの印象深い対話である。イエスは「人は水と霊とによって新しく生まれなければ救われない」と言われた。これを「洗礼を受けなければ救われない」と受けとめる解釈もある。しかし私はそんな儀式内に収まるようなみみっちい話をされたのではないように思う。そうではなく、風に吹かれて心が大きく揺さぶられて心機一転新たにされる...そんなダイナミックな経験のことをイエスは語られたと思うのだ。▼風は思いのままに吹く。その自由な息、吹を受けて、心が熱く燃えるような体験...それは受洗・未受洗の違いを超えてすべての人に開かれているはずのものだ。生涯一度しか体験できないようなものではない。▼ただしその風を感じるには大切な前提がある。私たちがただじっとしている限りにおいては、その風はなかなか感じられない、ということだ。変化を恐れず、心を開いて動き出そうとする...そんな私たちに、神さまの不思議な風がびゅうっとう吹いてくる。